

Art Brut



うみのもり



「令和4年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業」報告書
千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

「うみのもり」のゆらい

海のなかにも森があります。海藻でできた森です。
「藻場」と呼ばれるその森は、
時には隠れ家として、時には遊び場として、また時には
産卵の場所として、魚、ウミガメ、エビやカニなどの
多種多様な生きものを養い、
かつ海そのものの水質をも浄化する、
生態系の中で非常に重要な場所です。
今回、お話を頂いた時、
私の頭に浮かんだのはそんな「藻場」のイメージでした。
ここがあなたの「うみのもり」でありますように。

詩人 大島健夫

index

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業について

支援センターのなりたち

P1

千葉県障害者芸術文化活動支援事業 「千葉アール・ブリュットセンターうみのもり」の紹介

うみのもり活動内容

P2

令和4年度 うみのもり事業報告

ア.相談受付

P3

イ.人材育成講座の開催

P4

ウ.ネットワークの構築

P13

エ.発表等の機会の創出

P14

オ.情報収集、発信

P22

今後の展望・課題

P25

評議員からのお言葉

P26

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業

支援センターのなりたち

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業として千葉県では、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進することを目的として、2019(令和元)年より千葉県障害者芸術文化活動支援センターを設置しています。センター実施団体は、プロポーザル方式により、2021(令和3)年度、2022(令和4)年度は株式会社いろだまに決定し、様々な支援事業を行っております。

全国の障害者芸術文化活動普及支援事業

障害者芸術文化活動普及支援事業とは

2014(平成26)年度から3年間を通じて全国12カ所で行った「障害者の芸術活動支援モデル事業」の成果やノウハウをもとに2017(平成29)年度から実施しています。

本事業では、「都道府県」、「ブロック」、「全国」という3つの活動エリアを設け、2022(令和4)年度はそれぞれのエリアに支援センター(39都道府県)、広域センター(7ブロック)、連携事務局(2カ所)といった支援の拠点を設置しています。

2022(令和4)年度 実施都道府県

北海道・北東北 ブロック	広域センター：北海道に設置 支援センター：青森県・岩手県
南東北・北関東 ブロック	広域センター：宮城県に設置 支援センター：宮城県・山形県・福島県・栃木県
南関東・甲信 ブロック	広域センター：埼玉県に設置 支援センター：埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・山梨県・長野県
東海・北陸 ブロック	広域センター：新潟県に設置 支援センター：新潟県・富山県・石川県・福井県・岐阜県・静岡県・愛知県・三重県
近畿 ブロック	広域センター：奈良県に設置 支援センター：滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・和歌山県
中国・四国 ブロック	広域センター：高知県に設置 支援センター：鳥取県・島根県・広島県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県
九州 ブロック	広域センター：福岡県に設置 支援センター：福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県
全国	連携事務局

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 サイト(<https://arts.mhlw.go.jp>) より 引用

都道府県における活動支援

芸術文化活動を行う障害者本人やその家族、障害福祉サービス事業所、文化施設、支援団体等(以下「事業所等」)を支援する拠点「障害者芸術文化活動支援センター」(以下「支援センター」)を都道府県が設置します。事業の実施は、都道府県または都道府県が認めた団体が行い、主に以下の事業に取り組みます。

- ア. 都道府県内における事業所等に対する相談支援
- イ. 芸術文化活動を支援する人材の育成等
- ウ. 関係者のネットワークづくり
- エ. 発表の機会の確保
- オ. 情報収集・発信

令和4年度

千葉県障害者芸術文化活動支援事業 「千葉アール・ブリュットセンターうみのもり」の紹介

文化や芸術は障害のある子どもや大人の「福祉」や「教育」のためだけではなく、多様性と活力に満ちた地域共生社会の実現を目指しています。多種多様な生き物を養い、且つうみそのものの水質をも浄化する藻場。【うみのもり】は、そんな藻場のような場所でありたいと考えます。【うみのもり】は様々な表現方法や芸術をサポートしながら、芸術文化活動を支援する人の技術者習得の場の確保や表現者の様々な体験の機会を提案し、展示会などの機会を設けていきます。

実施団体の【株式会社いろだま】は、1998年より「たまあーと創作工房」としてアートと人との学びの場を作り教育と福祉にまつわるアートの活動をしてきています。アートが担う社会的役割を追求し続けています。



千葉アール・ブリュットセンター **うみのもり**

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いろだま内
TEL・FAX 0475-36-7411

MAIL info@uminomori.net WEB <https://uminomori.net>
(2023年3月より)



WEB サイト



FB ページ

ア. 相談受付（令和4年度の相談実績から）

<総括> 電話での相談は他センターと比べると少ない。メールや他のセンターからの紹介で相談に至った場合もある。2023年2月以降、コロナの落ち着きとともに相談が増えた。

<相談件数> 個人22件 企業事業所19件 月に2～3回ほど（2023年3月24日現在）

相談者の地域内訳（41件）※重複は除く

千葉市	市原市	東葛飾	葛南	印旛	香取	海匝	山武	君津	長生	夷隅	安房	他県	不明
12	0	6	8	1	0	0	1	3	3	0	1	6	0

<相談内容>

■当事者からの相談

アート活動を実施している事業所を紹介して欲しい。
いろだまの教室に通いたいなど。

■事業所・支援者からの相談

事業所でアート活動をはじめたい。
支援者より障害者アートの支援活動を学びたいがどうすればいいか。
支援活動をしたいがどうやって事業所とつながればいいのかわからないなど。

■その他、障害者アート支援者養成の講義をこまちだが依頼を受けた。（3回）

- ・特定非営利活動法人ディープデモクラシーセンター
- ・社会福祉法人生活クラブ風の村重心さくら 職員研修
- ・八千代市市民ギャラリー主催 ボランティア養成講座内研修

■企業からの作家紹介の相談

- ・デザイン会社 → 作品の二次利用目的の作家紹介
- ・FM 東京（番組出演）→ 社会福祉法人まあるい広場の作家を紹介
（南関東ブロック合同展と会期が重なったことから紹介）
- ・デザイン系会社 → 二次利用に向けて 千葉県の状況を知りたい（営業先検索を目的）
- ・商業系施設 → SDGs 関連のワークショップへの障害のあるかたの参加団体の紹介

■取材依頼

- ・千葉日報社
- ・毎日新聞社
- ・読売新聞社

<課題>

事業所内で実施している方、支援者として取り入れたい方（福祉系・美術系双方）、美術館、ギャラリーでも障害のある方との関わりをどのようにすればいいのか学びたい傾向が見られる。

<備考>

松戸・八千代・船橋・佐倉・千葉・浦安市などからの問い合わせが中心
（千葉以南は茂原市が1件、一宮町が1件（当事者）の状況）

イ. 人材育成講座の開催

芸術文化活動を支援する人材の育成等

<総括>

- ・人材育成を目指し、人材育成講座を7回開催した。音楽、身体表現や著作権についての講座など、表現に関わる様々な分野を網羅した。
- ・第1回・3回目の講座は広く知ってほしい内容のため、年度を通しオンラインでの視聴ができるようにした。
- ・第2回の講座では、長いスパンで人材育成を行うことを視点のひとつとし、学生の参加を促した。
- ・第4回講座で作った曲を使い、第6回講座での身体表現を行うなど、講座が単発のもので終わらないよう工夫をした。
- ・いずれの回も、参加者が目標（定員）より少ないことが課題である。だが一方で参加者が少ないことで講師と丁寧に交流することができ、より理解が増した。

<令和4年度 人材育成講座開催数>

7講座（オンデマンド2 オンライン2 対面3）

講座1 「アール・ブリュットと社会」【講師】野澤 和弘さん

対象：障害福祉サービス提供者、障害者の表現活動に興味関心のある方、表現をしてみたい方
日時：2022/7/18（月・祝）～2023/2/28（火）のYouTube動画配信 2月28日現在再生数
①「アール・ブリュット～日本と世界の現状」150回
②「なぜ人は表現（芸術）をするのか？」118回
③「文化と人権、アートの可能性」89回
★多忙な方でも観やすいように動画は一本につき30分程度にした。

講座2 「手で見て作る視覚障がい児の製作から学ぶ」【講師】西村 陽平さん

対象：高校生、大学生、社会人、障がいのある人との表現活動に興味関心のある方
日時：2022/7/31（日）午前／午後 会場：植草学園大学・短期大学
参加者23人 学生ボランティア10人

講座3 「著作権保護」【講師】後安 美紀さん

対象：高校生、大学生、社会人、障がいのある人との表現活動に興味関心のある人
日時：2022/8/1（月）～2、2023/2/28（火）のYouTube動画配信 2月28日現在
①「著作権の基礎知識」198回
②「商品化にあたって気を付けること」95回

講座4 「多様な人との音楽づくり」～音楽でコミュニケーション～（音楽） 【講師】即興からめーる団 赤羽 美希さん 正木 恵子さん

対象：音楽づくりに興味関心のある人
日時：2022/10/2（月）※9/3（土）講師の都合により延期
オンライン参加者6人（組）※実際の参加者3人

講座5 「ことばの、うみへ - 詩で見つけあう人間力 -」（文芸表現） 【講師】大島 健夫さん

対象：障害のある方に何らかの形で関わる、関わろうとしている方
日時：2022/10/30（日） オンライン参加者4人

講座6 「ウキウキ動けば、ドキドキ何かが生まれる（はず）」（身体表現分野） 【講師】オクダ サトシさん

対象：音楽に合わせて動くのが好きな方、他人と一緒にするのが苦手な方ほか
日時：2022/11/25（金）
会場：千葉県東総文化会館大ホール 参加者一般5人 協力団体15人（+職員10人）

講座7 「教えて！石井先生！ - こんな時には、どうするの?? -」（作品の保存と修復） 【講師】石井 亨さん

対象：ご自身で作品を制作されている方、施設などで利用者さんの作品担当の方ほか
日時：2023/1/15（日） 会場：八千代市市民会館 参加者10人（内障害者1名）

令和4年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業 うみのもり企画 人材育成講座

講座1 「アール・ブリュットと社会」【講師】野澤 和弘さん

対象：障害福祉サービス提供者、障害者の表現活動に興味関心のあるかた、表現をしてみたいかた

日時：2022/7/18（月・祝）～2023/2/28（火）のYouTube 動画配信3月8日現在再生数

- ①「アール・ブリュット～日本と世界の現状」150回
- ②「なぜ人は表現（芸術）をするのか？」118回
- ③「文化と人権、アートの可能性」89回

オンデマンド講座 YouTube 配信開始

公開期間内にご視聴ください 

人材育成
講座1

「アール・ブリュットと社会」

千葉県の障害者福祉を支えアール・ブリュット活動を推進し続けている 講師：野澤 和弘氏 

動画公開期間：2022年7月18日(月) 10:00～2023年2月28日(火) 22:00

参加費：無料（※申込み不要）

<p>① アール・ブリュット ～日本と世界の現状～</p> <p>動画 URL： https://youtu.be/xTkQozKrGv0</p>	<p>② なぜ人は表現(芸術)を するのか？</p> <p>動画 URL： https://youtu.be/-qwSquZfau0</p>	<p>③ 文化と人権、 アートの可能性</p> <p>動画 URL： https://youtu.be/Uo42E0iQyF8</p>
--	---	--





 **こんな方へ
おすすめの
内容です**

*千葉県全域・全国の障害福祉サービス提供事業者の方々
*障害者の表現活動に興味関心のある方、表現をしてみたい方

【講師】野澤 和弘さん

1983年早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。東京社会部でいじめ、引きこもり、薬害エイズ、児童虐待、障害者虐待などの報道に取り組む。2009年から論説委員（社会保障担当）を11年務め、2019年10月退社。現在は一般社団法人スローコミュニケーション代表、毎日新聞客員編集委員、植草学園大学副学長・教授。

ほかに、厚生労働省社会保障審議会障害者部会委員、内閣府障害者政策委員会委員、東京大学非常勤講師、上智大学非常勤講師など。

主な著書に「スローコミュニケーション」「なんとなくは、生きられない。」「障害者のリアル × 東大生のリアル」「条例のある街」「あの夜、君が泣いたわけ」「わかりやすさの本質」など。

講座2 「手で見て作る視覚障がい児の制作から学ぶ」【講師】西村 陽平さん

対象：高校生、大学生、社会人、障がいのある人との表現活動に興味関心のあるかた
 日時：2022/7/31 (日) 午前/午後 会場：植草学園大学・短期大学 参加者 23 名

対面講座
 日時：2022年 **7月31日(日)**
 午前の回 **10:30～12:00**
 午後の回 **14:00～15:30**
 会場：**植草学園大学・短期大学**
 (〒264-0007 千葉県若葉区小倉町1639-3)
M棟 1階 21・22教室
手で見てつくる
視覚障がい児の制作から学ぶ
 講師：**西村 陽平氏**
 千葉県のみならず
 全国のオールアクト活動の
 先駆けとして現在も後進を育てている

こんな方へ
 おすすめの
 内容です
 *高校生、大学生、社会人の方々
 *障がいのある人との表現活動に関心のある方



毎日新聞にて記事を掲載。→

【講師】西村 陽平さん

1947年京都市生まれ。東京教育大学芸術学科卒。
 千葉県立千葉盲学校で図工を担当、その後日本女子大学児童学科で美術教育を担当した。教育の仕事とともに、美術作家として作品制作を行う。作品は、ビクトリア & アルバート美術館など 国内外の美術館に収蔵されている。
 日本女子大学名誉教授。

【総括】講師 西村 陽平さん より

今年度は、視覚障がい子どもたち図工の授業のドキュメンタリーを見ていただき、その後実際にアイマスクを使い、粘土で制作していただきました。
 授業の現場では、毎日いろいろなことがあります。ある子が粘土をひもにして、手のひらでトントン叩いています。粘土は机にくっついてしまいます。そして、その粘土をはがすと、机にその粘土の跡が付きます。粘土の水分の跡です。授業中ずっと粘土をいろいろな形にして、机にくっつけていました。そして、はがしては、彼は言います。「影を作っている」
 些細なことのようなのだが、大事なことです。このような積み重ねから見えてくるものがあります。

【参加者アンケートより※抜粋】

- ・ アイマスクをしておの創作活動。普段何をやるにも視覚に頼っていることを改めて感じ、触覚のみを頼りの創作活動は難しかったですが、楽しい経験となりました。
- ・ 西村先生が、目の見えない人の体験をするのではなく、目が見えないからこそたちあがる感覚を感じて欲しい、という趣旨のことをおっしゃいましたが、アイマスクをつけて粘土にふれて、とてもよく実感されました。とても充実した時間でした。
- ・ 10kgもの粘土を使って何か作るのは初めてでした。大人でもワクワクドキドキしました。ぜひ子ども達にも体験してほしい、と思いました。
- ・ 子ども時代に西村先生の授業を受けていたら、私も粘土が大好きになっていたかもしれません。
- ・ 西村先生にお会いできて、懐かしい映像も見せて頂き幸せな時間でした。課題に対する捉え方の多様性を実感しました。

【参加者内訳】

個人/事業所		都道府県別			属性別			
個人	事業所	千葉県	東京都	茨城県	障害当事者	障害当事者以外	不明	学生ボランティア
21	2	21	1	1	0	18	5	10

県内市町村別													
船橋市	南房総市	千葉市	市原市	香取市	市川市	松戸市	八千代市	佐倉市	四街道市	成田市	習志野市	一宮町	不明
1	2	2	1	1	3	1	1	2	2	1	1	1	2

講座3 「著作権保護」【講師】後安 美紀さん

対象：障害のある人とアート活動を行っている福祉施設のかた、公募展を行う自治体または中間支援組織のかたほか

日時：2022/8/1（月）～2、2023/2/28（火）のYouTube 動画配信 2月28日現在

- ①「著作権の基礎知識」198回
- ②「商品化にあたって気を付けること」95回

オンデマンド講座 公開期間内にご視聴ください

日時：2022年 **8月1日** 月
10:00～YouTube 配信開始

著作権保護

一般財団法人たんぼの家スタッフ
講師：後安 美紀氏

著作権の基礎知識 と
商品化にあたって気を付けること について

参加費：無料（※申込み不要）
動画公開期間：2022年8月1日 10:00～2023年2月28日 22:00

動画 URL：その1「著作権の基礎知識」
<https://youtu.be/QSznG0vbmA>
その2「商品化にあたって気を付けること」
https://youtu.be/t_BbBmvFxOM

その1
その2

こんな方へ
おすすめの
内容です

- * 障害のある人とアート活動を行っている福祉施設の方 向け
- * アートやデザインを仕事にしたり学んでいる方 向け
- * 公募展などを行う自治体や中間支援団体の方 向け
- * 障害のある人のアートをデザインや商品化に活用したいと考えている企業や団体の方 向け
- * ほか、表現の発信やものづくりにかわわるどんな方にも

【講師】後安 美紀さん

生態心理学の知見から、演劇、ダンス、絵画の制作プロセスを観察し、制作者や鑑賞者の行為や知覚を研究してきた。生と心理学、芸術との関わりに関心を寄せる。2017年より、一般財団法人たんぼの家スタッフ。知的財産権を活用しながら障害のある人のアート活動を支えたり、誰もが知財活用できる土壌づくりを目指す「知財学習推進プロジェクト」等に従事。URL: chizai.goodjobcenter.com/
共著に「演劇と同時多発会話」「アート／表現する身体：アフォーダンスの現場」（佐々木正人編、東京大学出版会）など。

【総括】講師 後安 美紀さん より

弁護士や弁理士の資格を持たない私が、著作権をはじめとする知的財産権に関する講座の講師を務めてもいいものかと、かつて思い悩む日もありましたが、最近はどうもふっきれたような気がします。障害のある人の表現を知的財産であると認識し、その財産を活用する方法を模索することは、豊かさや幸せを考えることに直結していると思う出来事に遭遇する機会が増えたからかもしれません。

表現には、表現した人の思想や感情がこめられています。そのことがちゃんとリスペクトされる世の中であれば、みんなお互いに豊かな気持ちで幸せに暮らせるはず。別の角度から、特に人格的側面からいえば、幸せに暮らしているときはことさら著作権なんて考えなくてもよい状態にあるのです。人が権利を行使したくなるときは、そうでもしないと、その人が幸せでいられなくなる時だといえます。著作権について学ぶ意義はその機微がわかることにあると私は考えています。

講座4 「多様な人との音楽づくり」～音楽でコミュニケーション～（音楽）

【講師】即興からめーる団 赤羽 美希さん 正木 恵子さん

対象：音楽づくりに興味関心のあるかた

日時：2022/10/2（月） ※9/3（土）講師の都合により延期

オンライン申込者6人（組） ※実際の参加者3人

The poster features a light blue background with musical notes and icons of a person, a maraca, and a keyboard. At the top, a purple banner reads '代替日時、開催方法が決定しました！' (Replacement date and method determined!). Below this, a yellow banner says 'オンライン講座' (Online Lecture). The date and time are prominently displayed: '2022年 10月2日(月) 13:00～16:00'. The instructor names '赤羽 美希氏' and '正木 恵子氏' are listed. A speech bubble contains the text '音が出るものを何種類かご用意してご参加ください' (Please prepare several types of instruments that produce sound for participation). A photo shows two women, one in a wheelchair, playing instruments. A list of recommended content for participants is provided at the bottom right.

！代替日時、開催方法が決定しました！

オンライン講座

日時：2022年 **10月2日(月)**
13:00～16:00

講師：即興からめーる団
赤羽 美希氏
正木 恵子氏

音が出るものを何種類かご用意してご参加ください

音楽表現分野
多様な人との音楽づくり
～音楽でコミュニケーション～

障害のある方もない方もみんなで一緒に楽器を使ってオリジナルの曲を作ります。作った音楽は参加者全員で演奏、録音。11月にはその音楽を用いて、即興ダンスのワークショップが行われる予定です。

こんな方へおすすめの内容です

- *音楽づくりに興味のある方。
- *障害のある方と介助の方が一緒に参加いただき、みんなで楽しむ講座です。
- *楽器を習った経験がなくても参加できます。

【講師】即興からめーる団 赤羽 美希さん 正木 恵子さん

音楽家・赤羽美希と打楽器奏者・正木恵子による音楽ユニット。うたづくり、音あそび、楽器を使った音楽ワークショップを企画・実践するほか、コンサートホールやライブハウス、公共施設、学校等での演奏活動も行っている。うたの住む家プロジェクト主宰。既成概念にとらわれない、自由で面白い作品づくりと、ワークショップに参加した人、その一人一人がいなければ成り立ち得ないような音楽作りを目指している。

【総括】講師 即興からめーる団 より

今回の企画は、ダンスワークショップとのコラボレーションということで、参加者の皆さんと挑戦したのは、「動きから音楽をつくる活動」です。

最初に行ったうたづくりでは、ワークショップの中で中学生の参加者さんが BTS の曲に合わせて踊ってくれたダンスとダンスワークショップのタイトルから着想を得て、「イガグリ」という曲が完成しました。「負けてがっかり心イガグリ」「涙止まらない心ロマネスコ」など皆さんから出てくるパワーワードや鼻歌をその場でつなぎ合わせていく作業がとても楽しく、涙を流すほど笑いながらワークショップを進めさせていただきました。

次に行った、ダンスを指揮に見立てて即興的に音を出す活動、その場で紙に書かれていく文字やペンの動きを見て声を出す活動では、ZOOM を通して選択的に聴こえてくる他の方の声や楽器の音に影響されて参加者の皆さんが音の出し方やタイミングを工夫されている姿が印象的でした。

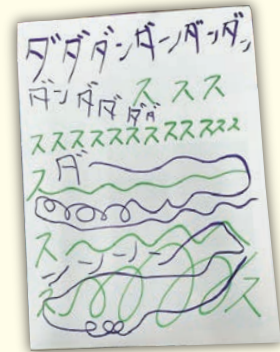
初めて出会った、年齢も背景も多様な方々とその場で曲を完成させたり、即興的に音を出したりする活動は、参加者の皆さんにとってチャレンジングだったと思いますが、皆さんが音楽を通して呼応しあった結果、個性的な音楽ができたと思います。

【感想】即興からめーる団 より

今回、企画段階で、ダンスワークショップと音楽ワークショップを連動させたコラボレーションを行うことを伺い、ワークショップが音楽だけで完結せず、ダンスと組み合わせられることに私自身とてもワクワク感がありました。

ダンスとのコラボレーションという枠組みがあったおかげで、動きに結びつくような新たな創作方法を考えることができ、ファシリテーターとしても面白かったですし、体やペンなどの動きから音楽を作り出すという普段はあまり接しないような活動に対して参加者の皆さんも必然性を持って取り組めたのではないかと考えます。

ダンスワークショップとのコラボレーションで出来上がった映像を見せていただいて、参加者の方々と作った音楽を組み合わせたりしながらほとんど全ての音楽を使って頂いて、オクダさんの編集に感服したと同時に、ダンス参加者の皆さん個々の身体から生み出されるダイナミックな動き、淡淡しい動きと音楽の融合が素晴らしく、感動しました。私にとって、非常に貴重な企画でした。本当にありがとうございました。(赤羽 美希)



音楽づくりでは身体を動かしてもらって、その動きに合わせて音を出してみたり、文字を描いて、その描くスピードに合わせて声を出して読んでみたりと、様々な方法で共同作曲を試みました。うたづくりでは、参加した人全員で和やかに話し合いながら、歌詞とメロディーを組み立てていき、元気な応援ソングのようなうた「IGAGURI」をつくることができました。

正にタイトル通り『多様な人たち』が、オンラインで離れていても、『音楽でコミュニケーション』しながらつくっていったのではないかと思います。

そしてこの、キラキラで、ときに元気でときにほっこり、たまにクスッと笑えるような音たちが、素敵なダンスと組み合わせさせて映像の作品になっていて私も感無量です。

素晴らしい企画に参加させていただいたことに感謝いたしますとともに、このような多様な人同士で音楽を共有できるような活動がもっともっと社会に広がって、当たり前になっていく未来を願ってやみません。(正木 恵子)

うたづくりワークショップでは、音や声・言葉で遊ぶようにうたがつくられていくのがとても印象的でした。そのため録音の編集では、うた声や楽器の音に言葉や物音などをブロックで遊ぶように繋げて音楽を作りました。

ダンスを拝見して、そんな音楽が日常的で身体の美しさを感じられる詩的な感動を覚えました。ありがとうございました。(渡邊 達弘)

【参加者アンケートより※抜粋】

- ・先日は楽しい時間をありがとうございました。何も無い状態から参加者の言葉や発する音からひとつの音楽を作り上げていく・難しいことだけれど、出来上がったときはうれしかったそうです。
- ・いろいろ、ご配慮ありがとうございます!!□ボカロみたいで、今風に、楽しめました。基本が、有る事が、羨ましいです。クラシックバージョン、JAZZバージョン等、楽しめますね□詩を、書く方々と、音楽、楽器をする方のコラボ楽しみたいです!!
- ・歌詞や旋律を複数の人と、即興で作っていく過程を経験し、参考になりました。

【参加者内訳】 ※申込時は6人(組)でしたが、講師の都合により延期したため実際の参加者は3人でした。

個人/事業所		都道府県別	
個人	事業所	千葉県	東京都
3	0	2	1

属性別		県内外市町村別			
障がい当事者	障がい当事者以外	八千代市	市川市	船橋市	東京
1	2	0	1	1	1

講座5 「ことばの、うみへ - 詩で見つけあう人間力 -」(文芸表現)

【講師】大島 健夫さん

対象：障がいのある方に何らかの形で関わる、関わろうとしているかた

日時：2022/10/30/ (日) オンライン参加者3人

オンライン講座

詩人
講師：大島 健夫氏

日時：2022年 **10月30日** (日)
10:30～12:30

こんな方へおすすめの内容です
*障がいのある方に何らかの形で関わる、
関わろうと思っている全ての皆様。

文芸表現分野
ことばの、うみへ
- 詩で見つけあう人間力 -

感じたこと、思ったことをそのままに表現する詩は、簡単で奥深い、素晴らしい芸術です。
この講座では、詩とは何かをやさしく解説するとともに、参加される皆様から事前にお送り頂いた詩作品を通じて、
そこにたたえられた新しい力を見つけてゆきます。決して批難や否定はしません。どうぞお気軽にご参加ください。

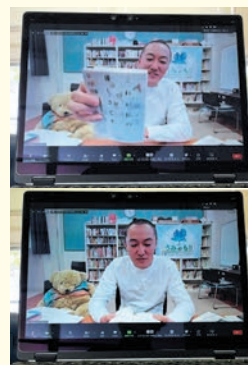
昨年、公募展「うみのもりの玉手箱」にて詩の作品を募集しました。応募者のなかに実際にお目にかかれない状況(重度心身障害、精神障害など)にあるかたとの出会いが沢山ありました。そんなこともあり今回はオンラインでの実施としました。介助のかたもご同席でご参加いただけます。障害のあるかたの言葉での表現の可能性を開くきっかけになればと思います。

【講師】大島 健夫さん

詩人。千葉県生まれ千葉県育ち。

自作詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン 2016 優勝。パリで開催されたポエトリースラム W 杯で準決勝進出。

モットーは「全ての事象は詩、なのかもしれない」。



【総括】講師 大島 健夫さん より

詩は、人類最古の表現形態のひとつです。

詩は、自由で、平等で、自分の思うようにつくれます。長くても短くてもいいし、語り口も自分で決められます。詩は、人そのものなのです。詩には本来、優劣はありません。その人が自分の本当に言いたいこと、言葉にせずにはいられないことをあらわしたものに、優劣があるはずはないのです。

しかし、優れた詩はなくとも、好きな詩はあります。今回の講座にあたって、参加者の皆様がつくってくださった詩の数々には、人が人として、人の間で生きてゆく上で、言葉というものの果たす大切なものが宝石のように輝いていました。そんな、私の大好きな詩を皆様とともに分かち合うことは、とても幸せな時間でした。その機微がわかることにあると私は考えています。

【参加者アンケートより※抜粋】

・自分の詩を詩人の方に朗読してもらったのは初めてで、とても新鮮で貴重な体験となりました。他の方の詩も一緒に共有する体験も刺激的でした。

・人数ゆえのあたたかい場で、とても貴重な機会をいただけたことに感謝の気持ちでいっぱいです。大島健夫さんの丁寧なお話をお聞きする中で、詩とはどういうものなのかを頭だけで理解するのではなく、感覚を通して捉えることができ、もっと詩が好きになりました。実際に自分の作品を朗読していただいた際は、大島さんの声がスッと体に染み入り、体の内側が騒がしく動いて感情が溢れてきました。不思議な体験でした。

【参加者内訳】

個人/事業所

個人	事業所
3	0

都道府県別

宮城県	埼玉県	福島県
1	1	1

属性別

障害当事者	障害当事者以外
0	3

講座6 「ウキウキ動けば、ドキドキ何かが生まれる（はず）」（身体表現分野）

【講師】 オクダ サトシさん

対象：音楽に合わせて動くのが好きなた、他人と一緒にのこをするのが苦手ななたほか

日時：2022/11/25（金）

会場：千葉県東総文化会館大ホール

参加者一般5人 社会福祉法人榎の実会より15人（+職員10人）

対面講座
 日時：2022年 **11月25日**（金）
13:00～15:30
 会場：千葉県東総文化会館 大ホール
 （〒289-2521 千葉県旭市ハ666）

身体表現分野
ウキウキ動けば、
ドキドキ何かが生まれる（はず）
ーダンス作品（のようなもの）を作りますー

「ダンスって他のみんなと同じことしなないといけないのですよね？」
 と思われがちですが、体型も、性格も、国籍も、性別も、髪の色も、
 目の色も、肌の色も、声も、考え方も、みんなそれぞれ違います。
 ダンスも揃ってなくていい。ウマイかヘタも関係ない。舞台上で
 動いてみましょう。誰かのマネをしたり、動いているうちに、ダンス
 になったり、ならなかったり。
 失敗してもそれは味。できた動きをつないで曲に合わせてみましょ
 う。これを撮影して映像作品にします。
 ご注意：講座でできた動画は「発表等の機会の創出」として1月に予定して
 いる展覧会もしくはうみのもりSNS等で公開されます。そのことを踏まえて、
 ご参加をご検討ください。

ダンスカンパニーコンドルズ
 講師：**オクダ サトシ**氏
 協力：社会福祉法人 榎の実会

こんな方へおすすめの内容です
 * 音楽に合わせて動くのが好きな方。
 * 他人と一緒にのこするのが苦手な方（オクダもそうです）。
 * ダンスが得意な人もぜひ。
 * 障害のある方も介助の方も一緒に舞台上で動きます。
 * つまり、どなたでも大歓迎です。

【講師】 オクダ サトシさん

踊るように見えない人。映像を作ったり絵を描いたり旅行する人。飛騨生まれ美濃育ち。東京藝術大学美術学部絵画科油
 画修士課程技法材料研究室修了。

在学中よりアートレスラーを名乗りパフォーマンスを始め『新宿少年アート』などに参加。Dance Company
 Nomade~s『ABSENT』で初舞台。近藤良平と共演したのをきっかけに 1999年コンドルズに参戦。全作品に出演。劇
 中映像も担当。2016年よりgoen^o所属。野田地図『パイパー』、ジェローム・ベル『Gala』、山田洋次監督『家族はつら
 いよ2』出演。劇団☆新感線などのアートディレクション、TV番組も手がける。

「体を使ってオモロなことする」ワークショップを多数開催。http://www.condors.jp/ http://www.goen-goen.co.jp/

【総括】 講師 オクダ サトシさん より

千葉県東総文化会館の全面協力のもと、榎の実会、一般参加のみなさんと「舞台を体験するワークショップ」
 を行いました。今回は初の試みでしたので、発表会ではなく、照明の変化や、幕の開け閉め、音響など、舞台な
 らではの表現を体験してもらいました。

舞台美術のくじらの絵とともに、即興からめーる団の曲でカラダを動かしていたら、パフォーマンスらしきも
 のになり、2本の映像作品ができました。

出演者のえちゃびんさんの言葉「くじらのピー」がタイトルになりました。偶然ですが「P」が頭文字の英単語
 にはパフォーマンス、パートナー、パッション、ピクチャー、プレイ…舞台に必要なものがいっぱいあります。
 今回のピースフルな作品にぴったりのタイトルです。

この作品を嚆矢として、最終的には舞台作品にしたいと思います。

【参加者アンケートより※抜粋】

・zoomで、歌詞と音楽を、作りました。これに、どんな風になるのか、楽しんで
 います。就労支援等で、働いて、余暇活動の充実がはかられますように！音楽、歌詞、
 ダンス皆さんが、楽しんでやれます様に。



【参加者内訳】

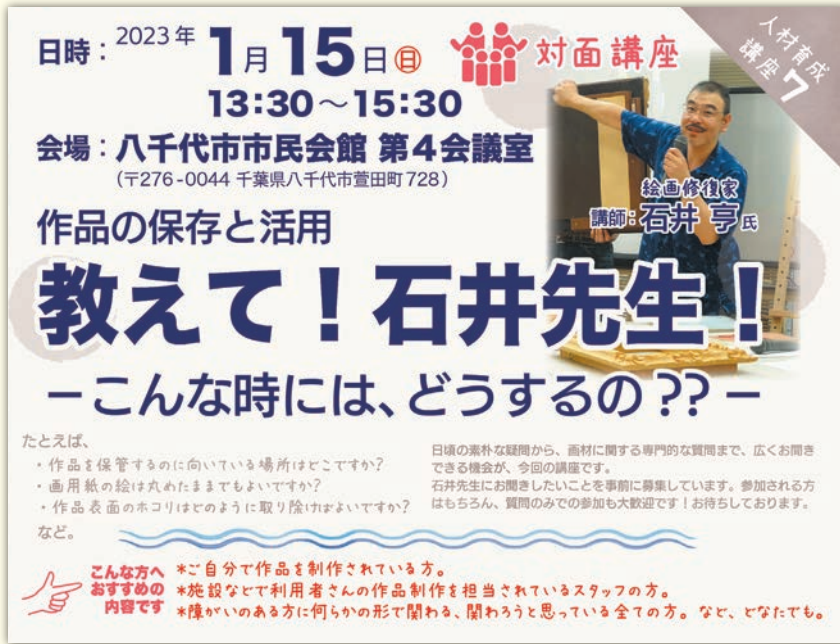
個人／事業所		都道府県別		属性別		県内市町村別		
個人	事業所	千葉県	他県	障害当事者	障害当事者以外	匝瑳市	多古町	市川市
5	1	30	0	17	13	4	25	1

講座7 「教えて！石井先生！ - こんな時には、どうするの?? -」（作品の保存と修復）

【講師】石井 亨さん

対象：ご自身で作品を制作されているかた、施設などで利用者の作品担当のかたほか

日時：2023/1/15（日） 会場：八千代市市民会館 参加者 10人



日時：2023年 1月15日（日） 対面講座
13:30～15:30
会場：八千代市市民会館 第4会議室
(〒276-0044 千葉県八千代市萱田町728)

作品の保存と活用
教えて！石井先生！
- こんな時には、どうするの?? -

たとえば、
・ 作品を保管するのに向いている場所はどこですか？
・ 画用紙の絵は丸めたままでもよいですか？
・ 作品表面のホコリはどのように取り除けばよいですか？
など。

日頃の業務外疑問から、画材に関する専門的な質問まで、広くお聞きできる機会が、今回の講座です。
石井先生にお聞きしたいことを事前に募集しています。参加される方はもちろん、質問のみでの参加も大歓迎です！お待ちしております。

こんな方へ
おすすめの
内容です
*ご自分で作品を制作されている方。
*施設などで利用者さんの作品制作を担当されているスタッフの方。
*障がいのある方に何らかの形で関わる、関わろうと思っている全ての方。など、どなたでも。

【講師】石井 亨さん

1960年 新橋で生まれる。
1985年 東京藝術大学 油画技法材料研究室修了
85～88年 東京藝術大学非常勤講師（助手）
88～91年 東海大学教養学部芸術学科非常勤講師
88～91年 代々木ゼミナール造形学校講師
91～93年 ロシア国立 絵画・彫刻・建築大学留学
(平成3年度 文化庁在外研修生)

92、93年 エルミターージュ美術館絵画修復室において研修
94～96年 桜美林学園中学・高等学校講師
94～02年 常葉学園短期大学美術・デザイン科非常勤講師
01～07年 公財）石橋財団美術品保存管理課長
2007年 ConRes 工房開設（西洋絵画の保存・修復工房）
2015年～ 多摩美術大学非常勤講師

【総括】講師 石井 亨さん より

参加者には質問事項について事前にアンケートを行った。参加者が10名程度であったため、講演ではなくワークショップ形式とした。講座の進行方法としてはアンケートの質問に回答しながら制作技法や材料、保存方法などについて説明し、説明には描画材料や展示保存資材の現物を使用すると同時に、PCやプロジェクターを使用し参考画像※や製品カタログなども紹介した。

保存性を優先して作品制作を行うと材料や技法に制約を受ける場合が多い。修復家の立場では保存性は修復家に任せて制作の自由度を優先しても大きな問題は無いとするが、使用する材料によっては有毒なものがあるのでその点では注意が必要である。また材料の保存性は用途によって限定されるものであり、この点についても注意が必要である。

作品の保存や展示に際して粘着剤の使用は避ける必要があり、貼り付けなどでは接着剤を使用する必要がある。作品の額装方法について、安定した糊によるテープや薄美濃紙による吊りヒンジによる方法を演習し、基本的な考え方の理解を求めた。

受講生の学習意欲が非常に高く、日常において障がい者と接触する機会の少ない私には質問に応えきれないものがあつたと思う。今回の講座によって気付いたことも多々あり、今後の改善課題としたい。

※参考画像：山下清『晩秋』、谷内六郎『千歳台遺跡壁画』、小山正太郎『波久禮村』、エドガー・ドガ『浴槽の女』、坂本繁二郎『馬』を使用した。

【参加者アンケートより※抜粋】

- ・ 講座で教えていただいた内容をまた見返しながら、今後の支援に携わる際には大いに役立てたいと思っています。
- ・ 具体的な保存方法を教えていただけたので、非常に参考になった。
- ・ 初歩的な質問も後に沢山させていただき、実りある研修でした。今後も講座のお知らせを拝見させていただき、勉強させていただきたいと思いました。
- ・ ためになる内容で、場の雰囲気はアットホーム。良かった。

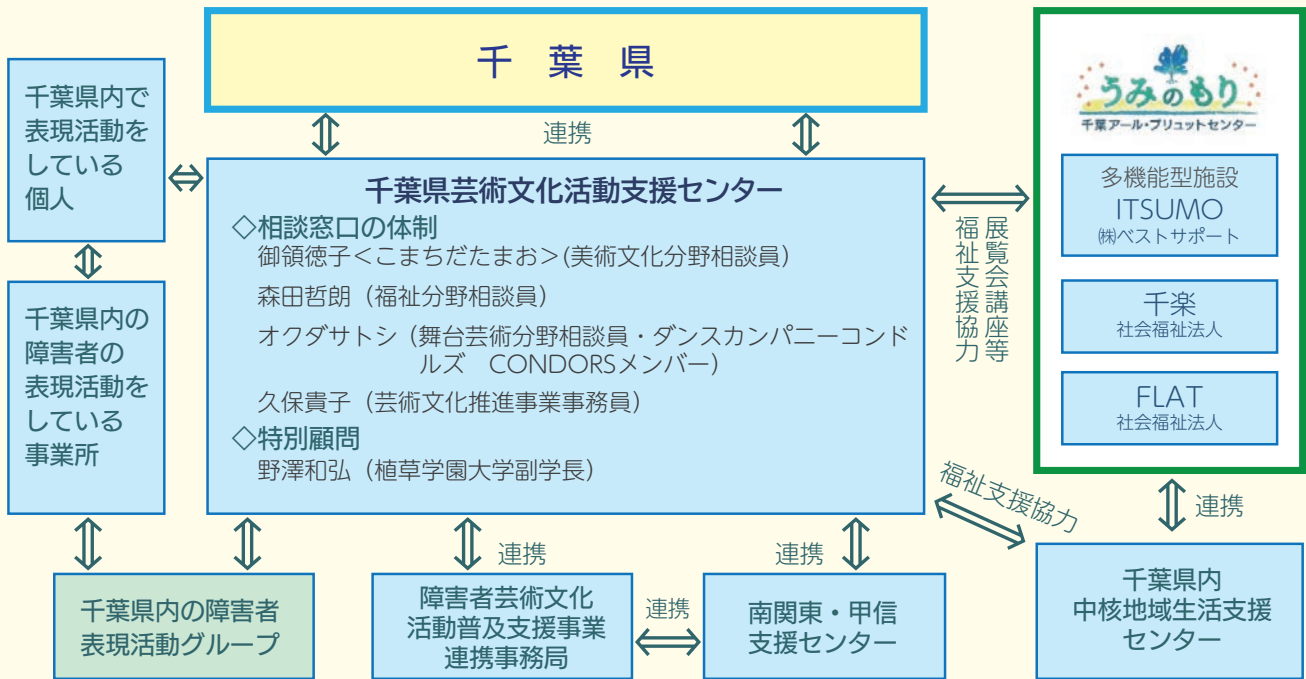
【参加者内訳】

個人／事業所		都道府県別		属性別		県内市町村別					
個人	事業所	千葉県	東京都	障がい者以外	障がい者	八千代市	柏市	千葉市	佐倉市	東金市	大網白里町
7	3	9	1	9	1	3	1	2	1	1	1

ウ. ネットワークの構築

二つのネットワークを考えています。
 その①表現活動のネットワーク
 その②アート×福祉のネットワーク

その① 表現活動のネットワーク体制図



- ◎作家（表現者）を中心として「支援者（指導者）」「事業所」「全国組織」をつなげる。
- ◎令和4年度の実績 南関東ブロック展覧会「カウンターポイント展」に千葉県で表現活動をしている1事業所まあるい広場と1名の作家を紹介した。
- ◎人材育成講座→表現者→表現の機会を作る技術を伝える
→支援者の育成による表現の源を育てる
すなわちネットワークづくりとなる。
- ◎人材育成講座・展覧会などの発表の機会の創出を元に表現者・鑑賞者（応援者）の双方からネットワークを築く。

その② アート×福祉のネットワーク

ネットワークの構築として メーリングリストを作成し 郵送やメールで送付いただいた他県の活動（展覧会・公募展・講座）の情報をメールで伝えている。週1から2回程度。計40回送付。作家活動をしているかたを登録し、展覧会出展の依頼があった際に紹介するなどを実践している。

作家(表現者)を中心として福祉の「支援者」「事業所」をつなげる。

ネットワークの構築の上で相談を重ね、その表現者が生活基盤を整えるべき状況があった場合は、うみのもりの協力事業所及び中核地域生活支援センターによる支援体制を整えている。

工. 発表等の機会の創出

令和4年度は下記の内容にて「発表等の機会の創出」をご案内しました。

主催 千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」 / 共催 千葉県
令和4年度 千葉県障害者芸術文化活動支援事業【発表等の機会の創出】のご案内


あなたも 展覧会「うみのもりの玉手箱2」で

- 今度は2会場で開催 } ・2023年1月9日(月祝)～15日(日) フラッグ・映像 [千葉市民ギャラリー・いなげ (千葉市稲毛区)]
- } ・2023年1月7日(土)～29日(日) 詩 [まあい広場・ギャラリー cue9 (千葉市若葉区)]
- フラッグは巡回します } ・2023年3月5日(日)～26日(日) フラッグ [千葉県東総文化会館 (旭市)]

作品を発表してみませんか!

【よろこび!】をテーマに表現した

アール・ブリュットの作品募集

[美術表現分野] 
フラッグの作品

『フラッグ 舞う』
～ いろであらわす いろであらわす～
監修協力: こまちだ たまお
「うみのもり」センター長 芸術文化相談員



申込み多数の場合は
抽選になります。

<https://forms.gle/UvX8pLVMo4fw87e8A>

[身体表現分野] 
映像の作品

からだ
『身体 舞う』
～ からだであらわす なにかであらわす～
監修協力: オクダ サトシ
「うみのもり」舞台芸術分野相談員



動画のデータを送信して
発表できます。

<https://forms.gle/R7u16qmJYC1iuZXZ8>

[文芸表現分野] 
詩の作品

『言葉 舞う』
～ ことばであらわす ことばであらわす～
監修協力: 大島 健夫
詩人



〈テキスト作品〉か
〈手書き作品〉で
発表できます。

<https://forms.gle/anQossS6cwSbuBr7>

まずは! エントリーフォームでお申し込みを!

※エントリーフォームからお申込み出来ない場合は、問合先までご連絡ください。

詳しい募集内容については、各分野の〈応募要項〉〈参加規約〉をご確認ください。

エントリー締切 2022年10月10日(月祝) / 作品提出締切 2022年12月18日(日) 必着

千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」は、千葉県障害者芸術文化活動支援事業の1つ [発表等の機会の創出] としてアール・ブリュットの作品発表の機会を設け、発表作品を募集いたします。

「うみのもり」はアール・ブリュットの表現活動の方法を提案します。今回の作品応募が、障害のある方の日々の豊かな余暇活動、表現を通じての社会参加、仕事の創出、支援をする方との大切な時間を作り上げることに、《つながる》芸術文化活動になることを願います。みなさまの作品のご応募をお待ちしております。

アール・ブリュット (Art Brut) とは

フランス語で「生(き)の芸術」という意味で、既存の美術教育の手あかが付いていない芸術作品を指します。フランスの画家ジャン・デュビュッフェ (Jean Dubuffet 1901-1985) が発案した言葉とされています。

「加工されていない芸術」「伝統や流行などに左右されず、作者自身の内側から湧き上がる衝動のままに表現した芸術」など、さまざまな言葉で定義されています。

【記録】発表等の機会の創出

- ◎フラッグ 申込 34 名 / 参加 31 名
- ◎映像 申込 1 名 / 参加 0 名
- ◎詩 申込 14 名 / 参加 10 名 / ※人材育成講座からの参加 2 名

フラッグ出展数（申込時点での状況）…申込 34 名

個人／事業所（人数）

個人	事業所	事業所(個人)
8	21	5

県内市町村別

松戸市	富津市	成田市	柏市	千葉市	四街道市	我孫子市	八千代市	長生郡睦沢町	市川市	大網白里市	袖ヶ浦市	白井町	船橋市	不 明
7	1	8	2	4	1	1	1	1	3	1	1	1	1	1

詩エントリー（申込時点での状況）…申込 16 名

個人／事業所（人数）

個人	事業所
10	6

県内市町村別

旭市	成田市	千葉市	勝浦市	八千代市	茂原市	市川市	松戸市	白井町	柏市	不明
1	1	4	1	1	4	1	1	1	3	1

映像エントリー（申込時点での状況）…申込 1 名

身体表現 1（県外からのエントリー） 出展なし



【監修】大島 健夫さん 詩人

詩人。千葉県生まれ千葉県育ち。自作詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン 2016 優勝。パリで開催されたポエトリースラム W 杯で準決勝進出。モットーは「全ての事象は詩、なのかもしれない」。



【監修】オクダ サトシさん「うみのもり」舞台芸術分野相談員

踊るように見えない人。映像を作ったり絵を描いたり旅行する人。飛騨生まれ美濃育ち。東京藝術大学美術学部絵画科油画修士課程技法材料研究室修了。在学中よりアートレスラーを名乗りパフォーマンスを始め『新宿少年アート』などに参加。Dance Company Nomade〜『ABSENT』で初舞台。近藤良平と共演したのをきっかけに 1999 年コンドルズに参戦。全作品に出演。劇中映像も担当。2016 年より goen° 所属。野田地図『パイパー』、ジェローム・ベル『Gala』、山田洋次監督『家族はつらいよ 2』出演。劇団☆新感線などのアートディレクション、TV 番組も手がける。「体を使ってオモロなことする」ワークショップを多数開催。



【監修】こまちだ たまおさん「うみのもり」センター長 芸術文化相談員

絵を描く人。美術を通じての共育活動人。生まれも育ちも上総一ノ宮。(株) いろだま代表。東京藝術大学美術学部 修士課程油画専攻 修了。1991 年より作品を生み出しながらかども造形教室に関わったのが物語のはじまり。98 年より たまあーと創作工房代表。「うちの子もよろしく」と先輩にお声がけをいただいてから障害者アートに関わる。保育所、福祉施設、特別支援学校、児童養護施設などでワークショップを重ね、アートでボーダーレスな時間と場を生み出す野望を持ち続ける。時間があれば海のそばで漂流している。

■令和4年度の「フラッグ」募集要件より抜粋 ※現在、募集は行っておりません。

令和4年度 [美術表現分野] フラッグの作品

『フラッグ 舞う』～いろであらわす いろをあらわす～

監修協力：こまちだ たまお 「うみのもり」センター長 芸術文化相談員

エントリー締切
2022年10月10日 自

エントリー



フォームから申込

抽選



抽選後、当選された方には事務局から旗が送られてくる

制作



「よろこび！」をテーマに制作

作品提出締切
2022年12月18日 必

提出



事務局へ旗を送る

2023年1月9日 自 ~ 15日 自

発表

千葉県市民ギャラリー・いなげ 開催
「うみのもりの玉手箱2」



会場に展示

2023年3月5日 自 ~ 26日 自

発表

千葉県東総文化会館 開催
巡回展
「うみのもりの玉手箱2」



会場に展示

〈応募要項〉

募集内容	[美術表現分野] フラッグの作品		
作品テーマ	【 よろこび! 】		
発表場所	① 展覧会『うみのもりの玉手箱2』2023年1月9日 自 ~ 15日 自 千葉県市民ギャラリー・いなげ 開催 ② 巡回展『うみのもりの玉手箱2』2023年3月5日 自 ~ 26日 自 千葉県東総文化会館 開催		
応募資格 (すべてを満たす方)	<input type="checkbox"/> 千葉県在住の方、事業所。または、千葉県に縁のある方、事業所。 <input type="checkbox"/> 日常生活にハンデを感じる方。 ・【個人】または【グループ】法人や事業所単位での応募。 <input type="checkbox"/> (参加規約) に同意いただける方。 <input type="checkbox"/> (人材育成講座3) その1「著作権の基礎知識」(https://youtu.be/QS2jnG0vbmA) を視聴された方。	 <p style="font-size: small;">著作権の基礎知識</p>	
エントリー方法	エントリーフォーム (https://forms.gle/UvX8pLVMo4fw87e8A) にて、必要事項を入力。 ※エントリーフォームからお申込み出来ない場合は、問合せ先までご連絡ください。		
エントリー締切	2022年10月10日 自 ※30人(グループ)。申込み多数の場合は抽選。		
応募点数	1人(1グループ)につき、1点までです。		
出品料	無料 ※旗は支給します。		
作品形式	平面画に限ります。画材・色数は自由です。 ※作品制作のアドバイス動画を用意します。旗を送付時に URL をお伝えします。		
作品サイズ	たて90cm × よこ125cm		
作品提出方法	[郵送] ・エントリーフォームより受付後、当選された方に旗を送付。制作後、同封のクリックポストで返送。 ※同封の返信用クリックポストに入らない場合、クリックポストを無くした場合はご自身でご用意ください。		
作品提出締切	2022年12月18日 必		

〈参加規約〉

■以下の規約に合意した上で作品を提出してください。

- 1) 作品は応募者のオリジナルで未発表の作品に限ります。
- 2) 公序良俗、その他法令の定めに対するもの、誹謗中傷を含むもの、著作権その他第三者の権利を侵害しているもの、所属団体などの宣伝を目的として表現されたものは、発表の対象外です。
- 3) 出品作品は広報等への展開に使用される場合がありますので、ご了承ください。
- 4) 展覧会の展示、会場への搬入出は「うみのもり」事務局が行います。

【総評】フラッグの作品 監修 こまちだ たまおさん より

今年は喜びをテーマに「フラッグ」を制作していただきました。昨年の「大漁旗」と違いさらに自由な表現を目指していただけだと思います。大漁旗の概念から離れ、より皆さんが皆さんらしいそれぞれの表現が見受けられました。まさに「創意工夫」皆さんが「出来る」を見つけそれを更に形にする学びと工夫がオリジナリティを深めてくださったと感じております。

今回は昨年も参加のかたが半数おられたことも私どもにとって喜びでした。昨年より皆様クオリティが上がっておいでです。また、ご多用中に関わらずお時間いただき著作権の動画、私の画材についての動画もご覧になり、ご理解を深めていただき感謝申し上げます。

千葉県市民ギャラリーいなげから東総文化会館ギャラリーへとフラッグは旅をします。千葉県の多くのかたにご覧いただいたあと、お手元に戻った際にお部屋を明るくしてくれると思います。

「美術表現分野」発表の創出



千葉県東総文化会館ギャラリー



千葉市民ギャラリーいなげ



千葉県東総文化会館ギャラリー



千葉市民ギャラリーいなげ



千葉県東総文化会館ギャラリー

- ・フラッグ…2023/1/9 (月・祝) ~ 1/15 (日)
会場：千葉市民ギャラリーいなげ
- 2023/3/5 (日) ~ 3/26 (日)
会場：千葉県東総文化会館ギャラリー

■令和4年度の「詩」募集要件より抜粋 ※現在、募集は行っておりません。

令和4年度 [文芸表現分野] 詩の作品

『言葉 舞う』～ことばであらわす ことばをあらわす～

監修協力：大島 健夫 詩人

エントリー締切 2022年10月10日 ⑤⑥

作品提出締切 2022年12月18日 ⑤ 必着

2023年1月7日 ④～29日 ⑤
まあいい広場・ギャラリー cue9 開催
展覧会「うみのもりの玉手箱2」

エントリー → **制作** → **提出** → **発表** → **発表**

うみのもり SNS (作品発表用 FB ページ)

発表 印刷して 会場に展示

発表 そのまま

① テキストで制作 → メールで送信 → うみのもり → 画像を投稿

② 手書きで制作 → 額に入れて送る → うみのもり → 画像を投稿

〈応募要項〉

募集内容	[文芸表現分野] 詩の作品	
作品テーマ	【 よろこび! 】	
発表場所	① 展覧会『うみのもりの玉手箱2』2023年1月7日 ④～29日 ⑤ まあいい広場・ギャラリー cue9 開催 ② うみのもり SNS 作品発表用 Facebook ページ https://www.facebook.com/uminomoriR3sakuhin/	
応募資格 (すべてを満たす方)	<input type="checkbox"/> 千葉県在住の方、事業所。または、千葉県に縁のある方、事業所。 <input type="checkbox"/> 日常生活にハンデを感じる方。 ・【個人】または【グループ】法人や事業所単位での応募。 <input type="checkbox"/> 〔参加規約〕に同意いただける方。 <input type="checkbox"/> 〔人材育成講座3〕その1「著作権の基礎知識」(https://youtu.be/QS2jnG0vbmA) を視聴された方。	 著作権の基礎知識
エントリー方法	エントリーフォーム (https://forms.gle/anqQossS6cwSbuBr7) にて、必要事項を入力。 ※エントリーフォームからお申込み出来ない場合は、問合せ先までご連絡ください。	 エントリーフォーム
エントリー締切	2022年10月10日 ⑤⑥	
応募点数	1人につき、1点までです。	
出品料	無料	
作品形式	※作品はどちらかの形式で制作してください。 ① (テキスト作品) ② (手書き作品)	
作品サイズ	① (テキスト作品) = 文字数の制限は特になし。 ② (手書き作品) = A3 サイズ (297mm×420mm) くらいまでの大きさ。	
作品応募方法	① (テキスト作品) = [メール] うみのもりのメール info@uminomori.net 本文に、文字で入力して送信。 ② (手書き作品) = [郵送・宅配] エントリーフォームにて申込み後、作品を額に入れて送付。 ※送料はご負担ください。	
作品提出締切	2022年12月18日 ⑤ 必着	

〈参加規約〉

■以下の規約に合意した上で作品を提出してください。

- 1) 作品は応募者のオリジナルで未発表の作品に限ります。
- 2) 公序良俗、その他法令の定めに対するもの、誹謗中傷を含むもの、著作権その他第三者の権利を侵害しているもの、所属団体などの宣伝を目的として表現されたものは、発表の対象外です。
- 3) 出品作品は広報等への展開に使用される場合がありますので、ご了承ください。
- 4) 作品発表用 Facebook ページ への作品投稿、展覧会の展示、会場への搬入は「うみのもり」事務局が行います。
- 5) 展覧会の展示方法は、①(テキスト作品) で提出の場合＝事務局でプリントアウトして展示。
②(手書き作品) で提出の場合＝作品を展示。
- 6) (手書き作品) 作品の返却について、展覧会終了後に元払いにて返送いたします。

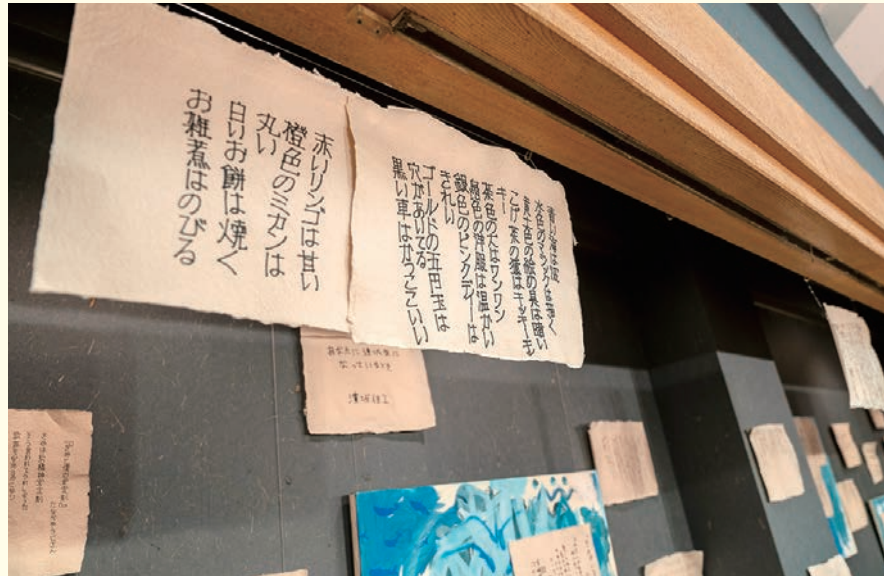
【総評】 詩の作品 監修 大島 健夫さん より

多くの人は、詩をつくらなくても生きていけます。でも、心の中で生まれ育ったものを詩の言葉にすることが、大切な何かを見つけることにつながったり、欠けた何かを埋めることができるのなら、そんなに素敵なことはありません。そして、そうした詩の言葉は、時には読む人の心にも大切な何かをもたらし、また欠けた何かを埋めることもあります。

今回、作品をお寄せくださった皆様の中に、これらの作品の種が生まれたのはいつだったのでしょうか。どのようにして生まれたのでしょうか。その種が育ち、詩の言葉となるまでに、いくつの朝や夜があったのでしょうか。それはどんな朝や夜だったのでしょうか。

このひとつひとつの作品の後ろに、深い海が広がっています。

「文芸表現分野」発表の創出



・詩の作品…2023/1/7 (土) ~ 1/29 (日)
会場：まあるい広場

※新型コロナウイルス感染防止のため 1/14 (土) に開始日を変更

■令和4年度の「映像」募集要件より抜粋 ※現在、募集は行っておりません。

令和4年度 [身体表現分野] 映像の作品

からだ

『身体 舞う』～からだであらわす なにかをあらわす～

監修協力：オクダ サトシ「うみのもり」舞台芸術分野相談員

エントリー締切 2022年10月10日 ④

制作 「よろこび！」をテーマに制作

提出 2022年12月18日 ④ 必着

発表 うみのもり SNS (作品発表用 FBページ)

発表 2023年1月9日 ④⑤ ~ 15日 ④ 千葉県民ギャラリー・いなげ 開催 展覧会「うみのもりの玉手箱2」

〈応募要項〉

募集内容	[身体表現分野] 映像の作品
作品テーマ	【 よろこび！ 】
発表場所	① 展覧会『うみのもりの玉手箱2』2023年1月9日 ④⑤ ~ 15日 ④ 千葉県民ギャラリー・いなげ 開催 ②うみのもり SNS 作品発表用 Facebook ページ https://www.facebook.com/uminomoriR3sakuhi/
応募資格 (すべてを満たす方)	<input type="checkbox"/> 千葉県在住の方、事業所。または、千葉県に縁のある方、事業所。 <input type="checkbox"/> 日常生活にハンデを感じる方。 ・【個人】または【グループ】法人や事業所単位での応募。 <input type="checkbox"/> (参加規約) に同意いただける方。 <input type="checkbox"/> (人材育成講座3) その1「著作権の基礎知識」 (https://youtu.be/QS2jnG0vbmA) を視聴された方。
エントリー方法	エントリーフォーム (https://forms.gle/R7u16qmJYC1iuZXZ8) にて、必要事項を入力。 ※エントリーフォームからお申込み出来ない場合は、問合せまでご連絡ください。
エントリー締切	2022年10月10日 ④⑤
応募点数	1人 (1グループ) につき、1点までです。
出品料	無料
作品形式	mp4 もしくは mov 形式の映像ファイル。
作品サイズ	・作品の長さは3分以内。 ・目安は 1920px × 1080px。 ※出力について不明な点があれば、 info@uminomori.net まで問い合わせください。
作品提出方法	転送サービス (ギガファイル便推奨) を利用して、メール info@uminomori.net に送信。
作品提出締切	2022年12月18日 ④ 必着

〈参加規約〉

■以下の規約に合意した上で作品を提出してください。

- 1) 作品は応募者のオリジナルで未発表の作品に限ります。
- 2) 公序良俗、その他法令の定め反するもの、誹謗中傷を含むもの、著作権その他第三者の権利を侵害しているもの、所属団体などの宣伝を目的として表現されたものは、発表の対象外です。
- 3) 音源は著作権フリーのものをお使いください。
- 4) 出品作品は広報等への展開に使用される場合がありますので、ご了承ください。
- 5) 作品発表用 Facebook ページ への作品投稿、展覧会の展示、会場への搬入出は「うみのもり」事務局が行います。

監修協力：オクダ サトシ「うみのもり」舞台芸術分野相談員

踊るようには見えません。映像を作ったり絵を描いたり旅行する人。飛騨生まれ美濃育ち。東京藝術大学美術学部絵画科油画修士課程技法材料研究室修了。在学中よりアートレスラーを名乗りパフォーマンスを始め『新宿少年アート』などに参加。Dance Company Nomade-s「ABSENT」で初舞台。近藤良平と共演したのをきっかけに1999年コンドルズに参戦。全作品に出演。劇中映像も担当。2016年より goen' 所属。野田地図「パイパー」、ジェローム・ベル「Gala」、山田洋次監督「家族はつらいよ2」出演。劇団☆新感線などのアートディレクション、TV番組も手がける。「体を使ってオモロなことをする」ワークショップを多数開催。

【総評】映像の作品 監修 オクダ サトシ氏 より

今年度は、エントリーはありましたが実際の作品投稿は無く、残念でした。なかなか人前で「作品」を見せるのはハードルが高いです。わかります。それでも一回出してみると、意外と平気なものです。次回はぜひ。今はビデオカメラがなくても、スマートフォンがあれば、撮影も編集もできる時代になりました。日常を取り取るだけでも十分に作品になります。次回からはもう少し気楽に参加できるよう、こちらも工夫いたします。ご応募お待ちしております。

「展覧会開催状況について」

- ・ 詩の作品… 2023/1/7 (土) ~ 29 (日) 会場：まあるい広場
 ※新型コロナウイルス感染対策のため 1/14 (土) に開始日を変更
- ・ 身体表現の映像とフラッグ…2023/1/9 (月・祝) ~ 15 (日)
 会場：千葉市民ギャラリーいなげ
 2023/3/5 (日) ~ 3/26 (日)
 会場：千葉県東総文化会館ギャラリー



2023年 詩の作品 } 1月14日(土)~29日(日) まあるい広場・ギャラリー cue9
 千葉県千葉市若葉区東寺山町 663-8 ☎043-287-1022
 開館時間 10:00~16:00(入館は15:30まで) 初日14日(土)は10時から開場、最終日29日(日)は15時に開場/21日(土)、22日(日)は休館

2会場で開催 1月 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29

2023年 身体表現の映像作品 } 1月9日(月・祝)~15日(日) 千葉市民ギャラリー・いなげ
 千葉県千葉市稲毛区稲毛1-8-35 ☎043-248-8723
 開館時間 9:00~17:15(入館は17:00まで) 初日9日(月)は13時から開場、最終日15日(日)は15時に開場/10日(火)は休館
※車いす・ベビーカー等でご来館の場合は、事前に直接会場にご連絡いただければ、段差のない業務用駐車スペースをご案内できますので、上記までご相談ください。
 なお、ギャラリー棟は2階建てですが、エレベーターがございません。誠に申し訳ございませんが、予めご了承ください。

2023年 フラッグの作品 } 3月5日(日)~26日(日) 千葉県東総文化会館・ギャラリー
 千葉県旭市八 666 ☎0479-64-2001
 開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで) 初日5日(日)は13時から開場、最終日26日(日)は17時に開場/6日(月)、13日(日)、20日(日)は休館

巡回展示 3月 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26

「うみのもり」センター長 芸術文化振興員 「うみのもり」舞台芸術分野相談員 詩人
 (監修協力) 大漁旗の作品：こまちだ たまお / 身体表現の映像作品：オクダ サトシ / 詩の作品：大島 健夫

主催：千葉アール・ブリュットセンターうみのもり
 共催：千葉県
 後援：朝日新聞千葉総局 / 株式会社千葉日報社 / 公益財団法人千葉県文化振興財団(1月のみ)
 産経新聞社千葉総局 / テレビCテレ / 東京新聞千葉支局
 毎日新聞千葉支局 / 読売新聞千葉支局
 協力：社会福祉法人 オリーブの樹(フラッグ制作)

うみのもりSNS発表用ページ

作品発表用うみのもりFacebookページ
<https://www.facebook.com/uminomori3sakuhin/>
 応募していたいた。映像の作品と詩の作品は展覧会に先立って、うみのもりSNSで映像や画像を発表しています。

問合せ： 千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いろだま内
 TEL 0475-36-7411 FAX 0475-42-6138
 MAIL info@uminomori.net WEB https://uminomori.net
(メールアドレスが変わりました)

WEB サイト

FB ページ

千葉県SDGs推進パートナー 638号

展示開始日変更のお知らせ
 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け
 詩の作品の展示(会場：まあるい広場・ギャラリーcue9)は
 14日(土)からの展示になりました。

オ. 情報収集、発信

うみのもりWebサイトや
Facebookページ・Instagram・TwitterなどのSNSを活用して発信。



<令和4年度の運営から見えてきたこと>

(1) 情報収集

・県内の特別支援学校を対象に、表現活動についてのアンケートの実施を計画した。担当部署、文化振興課が親身になって情報などいただいたが実際のアンケートまでには至らなかった。芸術教科を実施している高等部はいわゆる高等技術支援校に限られていること、技術中心の授業であることが今後の課題の一つとなりそうだ。

(2) 情報発信

- ・SNSを通じ、アール・ブリュットに関する情報やうみのもりの活動を、随時情報発信した。
- ・ML登録者には、全国のセンターからの情報の共有を図った。

<令和5年度の情報発信計画>

◎情報発信の手段として本年度も【ちば県民だより】の活用を提案

相談業務窓口案内、作品公募展示企画、人材育成講座、作品の発表などを定期的に掲載することで県民への周知を図る。

【ちば県民だより】は行政・福祉・教育関係のかたの読者数が多いことも提案理由。

◎更に【千葉テレビ】【千葉日報】などマスコミ各社への広報依頼をし、作品の発表の機会の創出につながる情報発信もできると考えられる。

全国の各センターとの連携、郵送での情報をメーリングリストに繋げることも視野を広げるきっかけとなる。

YouTube を利用した情報の発信

Youtube の閲覧状況（2023年3月27日現在）

動画制作による会場風景（閲覧数 198 件）



【うみのもりの玉手箱2】 展覧会 動画



音楽身体表現の動画「くじらのピー」(閲覧数 153 件)



くじらのピー



「くじらのピー いがぐり ver」(閲覧数 101 件)



くじらのピー (イガグリVer)



千葉アール・ブリュットセンター うみのもり

〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8 株式会社いろだま内

TEL・FAX 0475-36-7411

MAIL info@uminomori.net WEB <https://uminomori.net>
(メールアドレスが変わりました)



WEB サイト



FaceBookページ



twitter



instagram

令和4年度



「ご案内」送付受付フォーム

※令和3年度に送付した方には、引き続き送付いたします。



相談フォーム



千葉県のアール・ブリュット
作家・作品 紹介ページ
(監修 うみのもり)



千葉県のアール・ブリュット
作家・作品 紹介ページ
作品公開エントリーフォーム

令和3年度



令和3年度 作品発表用
FaceBookページ

展覧会『うみのもりの玉手箱』用に
応募していただいた、作品を発表しています。
(2022年3月15日～20日千葉市民ギャラリー・いなげ 開催)

今後の展望・課題

その①相談業務の拡充

コロナ対応が変わってきており 相談についても対応や件数が変わる可能性がある。

その② 人材育成講座

- 芸術文化活動の支援における 障害のあるかたへの対応の基礎知識
- 作品の保護・保管について 画材の基礎知識
- 障害のあるかたへの表現活動の場でのファシリテーター養成
- 詩の表現について
- 音楽表現について
- 舞台表現について

東総文化会館の舞台を借りての表現の場を作る動画での配信

その③発表の場の創出展覧会について

千葉県健康福祉課から 文化振興課への移行による県からの要望・意思から「発表等の機会の創出」の形態が変わる可能性がある。

その④特別支援学校との関わり

児童の年齢から 表現活動の場を作る。他県への調査 広島県、青森県

その⑤千葉県との関わり

「千葉県文化芸術推進基本計画」の策定、

令和4年度～令和6年度までの3年間に関わる。その上で、

目指す姿として「あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会」が掲げられており、**施策の柱**として5つ項目があるうちの**一つ目**、「(1) あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境作り」として文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術を**実践・鑑賞**することができる環境を整備する、この観点から障害者芸術文化活動普及支援事業が担える点があるのではと思索している。

目指す姿

「あらゆる人々が文化芸術に親しみ、交流することで創り育む心豊かな県民生活と活力ある地域社会」

4 施策の柱（5つあるうちの**一つ目**）

(1) あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり

文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障害の有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術を**実践・鑑賞**することができる環境を整備する。

この観点から 千葉県文化芸術推進懇談会（令和4年度～令和6年度）の委員を担っている。

本県の文化芸術の振興に当たり、有識者等から広く意見を求めるために設置

1. 「千葉県文化芸術推進基本計画」に基づく施策の実施に関する事項
2. 「千葉県文化芸術の振興に関する条例」に基づく施策の実施に関する事項
3. その他必要な事項

評議員より



評議員 西村陽平先生
日本女子大学名誉教授

千葉県においても「あらゆる人々が文化芸術に親しむことができる環境づくり」が進められている。具体的には「文化芸術活動を行う人々の自主性や専門性が尊重されるとともに、障がいの有無や年齢等に関わらず、誰もが文化芸術を実践・鑑賞できる環境を整備する。」となっている。芸術文化の実践となるとすべての人が行うのは難しいが、鑑賞はすべての人が行うことができる。しかし、障がい者にとっては、美術館・劇場などはまだまだ気楽に行ける場所となっていない。このことは、社会のあり方として重要なことであり、早急に実現されるべきである。なお、アメリカにおいては、1974年に実現している。

相談支援については、相談件数が少ない。しかし、この事業を始めて間もないためもあり、周知が図られるためには、まだ時間がかかると思われる。

人材育成については、多くの講座・ワークショップが実施された。他県にはない文学の分野「詩」が行われている。どのような成果が生まれるのか期待される。

人材育成となると、1回だけのイベント的な講座・ワークショップでは成果が上がりにくいので、1つの講座・ワークショップを1年間連続で行うことも考えられる。発表の機会の確保については、美術分野の「フラッグ」ではテーマを設けていたが、障がい者の中には理解できないこともあるので、個人が自由に制作した作品も対象としてはどうか。千葉県にも優れた作品を制作している人がいるかもしれない。



評議員 花澤洋太先生
東京学芸大学 教職大学院 教授
(教育学研究科 教育実践専門職高度化専攻 教科領域指導プログラム 美術・工芸教育サブプログラム)

現在、多くの教育現場、施設、コミュニティーでは長引くコロナ禍も相まって日常の業務活動で手一杯のため、他の地域との連携、共有などは行い難い状況であり各活動、情報は孤立、点在している状況である。このような状況において千葉アール・ブリュットセンター「うみのもり」は広域な千葉県の多くの地域、障害者施設において活発にワークショップを実施することで人々、地域を繋いでいる。美術家、造形指導者として長く活動を続けて培った、しなやかな視点、思考、多くの経験を有する代表 こまちだたまお（御領徳子）を中心に企画されたワークショップは多様な表現活動（美術、演劇、パフォーマンス、詩）が横断的に関係を持ち多様な学びの場となっている。また作品展示、成果発表は協働、交流の場となり対話、鑑賞を通して新たな視点、思考に気づく機会となった。活動は対面と同時にインターネットにおける場づくりも充実。瞬時の広報 web、SNS とオンデマンドを併用発信することで活動記録、専門講座に長い時間アクセスできるように配慮されている。

知識基盤社会と呼ばれる現在、今後も継続的に地域、領域を横断連携した活動、ネットワーク構築は重要であり障害の有無に関係なく誰もが参加出来る芸術文化活動体験は多くの主体的、対話的な深い学びから「生きる力」を身につける機会となっている。

発行日：2023年3月

企画・編集・発行：株式会社いろだま

発行責任者：こまちだ たまお（株式会社いろだま代表）

デザイン・印刷：デザインワークス

会場・作品撮影 竹村浩輝

千葉県障害者芸術文化活動支援事業
千葉アール・ブリュットセンターうみのもり

〒299-4301

千葉県長生郡一宮町一宮2553-8(株式会社いろだま内)

TEL・FAX:0475-36-7411

MAIL:info@uminomori.net

HP:https://uminomori.net

本書は千葉県「令和4年度千葉県障害者芸術文化支援事業」の一環として製作しました。

